卒業生Interview

学びの、その先に。

No.95

仮説検証と改良を繰り返す研究プロセスや
経済学的思考が、企画職につながっています。

中村　優 さん

Yu NAKAMURA

経済・マネジメント学群
国際経済マネジメント専攻　2020年度卒業

Sansan株式会社
Bill One事業部　事業企画部
マネージャー



1



2

1. 学生団体を立ち上げ、「こうちNPOフォーラム2020（現・こうちNPOフェス）」で事業の必要性をPRした。
2. 大学1年時に参加したタイ、シンガポールへの語学研修にて。

Q1 学生時代に熱中したことは？

自身で立ち上げた学生団体での活動です。大学2年の時、授業の一環で徳島県神山町にある「日本の田舎をステキに変える!」をミッションに掲げる認定NPO法人「グリーンバレー」に受け入れてもらいインターンシップを経験しました。町内でリサーチ活動をする中で出会った町の人たちの思いに触れ、刺激を受けました。

その結果、「生まれ育った環境により生じる機会格差の改善」をめざし学生団体を立ち上げました。大学3・4年の時には、ご縁ができた方々と一緒になって、リアル会議や全10回のオンラインイベントを開催。学生と各分野で活躍する社会人をつなぐキャリア教育活動を行うことができました。

学生時代に熱中し、自ら変えたいことを変えていける経験を積ませてもらえたことは財産だと感じています。

Q2 在学中、先生方からどのようなサポートを受けましたか？

当時、キャリア教育を担当されていた都築 五明先生には学生団体の立ち上げからアドバイスをいただき、所属していた研究室の小谷 浩示先生には「自分の意見やアイデアを大事にしなさい」と、主体性を持つことの大切さを教わりました。

また、一生懸命頑張っていれば誰かが応援してくれることを、大学4年間で身に沁みて感じました。社会に出てからも同じで、諦めずに頑張っていれば向き合ってくれる人たちがいます。「諦らめずに少しでも進めば何かが変わる」という感覚は、大学と社会の双方で学びました。

Q3 就職先である「Sansan」との出会いは？

最初の出会いは神山町でのリサーチ活動の時です。町内にサテライトオフィスを置いていた「Sansan株式会社（以下、Sansan）」に興味を持ちました。ただ、当時は就職活動を始めたばかりで、就職先として意識していませんでした。その後、大学が推奨していた逆求人アプリでオファーをいただいたことがきっかけで意識し始めました。

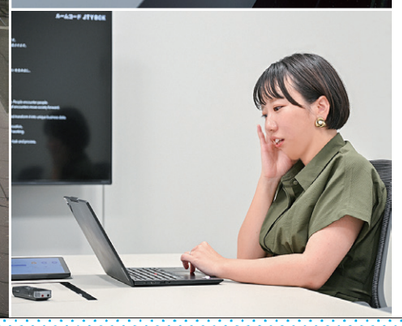
Q4 就職を決断したきっかけは？

もともとキャリア教育や学生の機会格差に関心があり、「人と人との出会いをつくる仕事がしたい」と教育・人材業界を希望していました。ただ、自分の考え方や価値観などを整理していく中で、出会いそのものよりも、出会いが生まれる仕組みをつくることで多くの人の“あたりまえ”を変えていきたいと思うようになりました。

当時の私には、Sansanが名刺を起点にビジネスにおける「出会い」の仕組みを変え、新しい“あたりまえ”を作ってきた会社だと感じられました。自分自身が描いていた社会貢献への思いと重なる部分があったため、入社を決めました。









プライベートでは、富士五湖の一つ山中湖へ紅葉狩りに行ったり、家族で宮古島でスキューバダイビングをしたりと、都市部を離れて自然の中で過ごすことが多い。



Profile

◎中村 優 さん プロフィール

香川県立三木高等学校出身／中学生の頃に、社会の仕組みをどう使えば、限られた資源を最大化できるのかに興味を持ち、高知工科大学では小谷 浩示教授のもと実験経済学を学ぶ。卒業研究では約250組の夫婦を対象に調査を行い「夫婦の相性の認知が個人の幸福度にどう影響するか」をまとめ、学群の最優秀論文に選出される。

やりたいことには一直線に向かって進む一方、実は人見知り。学生時代に同じカフェでアルバイトをしたり、学生団体を立ち上げた友人たちとの関係は、現在も変わらず続いている。

Interview

Q5 現在はどういった業務をしていますか？

請求書や領収書といった証憑（しょうひょう）書類が関わる業務プロセスを、AIとテクノロジーの力で効率化することで会社全体の働き方を変える、「経理AX（AIトランスフォーメーション）」サービスを担当するBill One（ビル ワン）という部署に所属しています。

日々、お客さまへサービスの価値を持続的に提供するための業務設計や運用に向き合い、事業が成長しプロダクトの価値が広がっても問題なくお客様へ届けるためにはどんな仕組みを作るべきかを考えています。

Q6 これまで仕事で苦心したことはありますか？

入社1年目はインサイドセールスを担当しましたが、最初の数か月は成果を出せず、自分の弱さや仕事への向き合い方を見つめ直す時間が続きました。周囲に支えてもらい結果が伴うようになった頃、「営業で成績を収める人は、なぜ顧客と早く関係を築けるのだろう」と、組織を動かす仕組みに興味を持ち、現在の部署へ異動しました。業務の仕組みを学ぶ機会を与えてくれた前部署の上司や先輩には、今でも感謝しています。

Q7 大学で学んだことは会社で役に立っていますか？

企画職の仕事は「多くの事柄から課題を捉え、戦略を立てて実行し、結果を検証し、改善する」という流れです。これは大学で何度も繰り返した「仮説検証と改良」の研究プロセスと非常に似ており、培った思考が生きていると感じます。また、経済学の「限られた資源で成果を最大化する」という考え方も含め、大学での学びは今の職種にリンクしています。

Q8 あらためて高知工科大学で学んだ4年間はいかがでしたか？

「自分次第でどこまでもいける」制度が整っている大学です。座学で終わらせず、社会をフィールドにして実践的に試せるカリキュラムがあり、先生方も積極的に協力してくれるカルチャーがあります。留学支援や奨学金などの経済的支援も充実しており、自身の努力によって機会を得ることができる素晴らしい環境でした。

Q9 在学生にメッセージをお願いします。

自由に使える時間が多い4年間に、どれだけ経験を増やせるかが、その後の人生に大きく関わってくると思っています。学費を払って教育というサービスを受けているという意識を持ち、大学や先生方のネットワーク・リソースを使い倒し（笑）、得られる価値を最大限引き出してほしいです。

あっという間の4年間ですが、大学での経験は、変化の激しい社会を自分自身の意思で歩むための大きな原動力になるはずです。